



# 褒め言葉

1月20日

Sudden Fiction Project

高階 經啓  
hirotakashina

## 1月20日のおはなし「褒め言葉」

---

えー。

世の中、気むずかしいっていうんでしょうか、素直じゃない人間がおりますな。へそ曲がりなんて呼んだりもする。

「あのう、このたびはとんだ不始末で、お詫びの申し上げようもございません」

「何をっ？ 『申し上げようもございません』だ？ お詫びを言いに来たのかそうじゃないのか、どっちだッ。はっきりしやがれッ」

なんて。そんなところでいちいちからまれても困っちゃう。何かってえと揚げ足を取る。茶々を入れる。素直に聞いてくれません。

こういうのはあれですな、芸術家ってんですか、そういう手合いに多い。斜（ハス）に構えるのが商売ってなところもありましてな。洋風に言うとロックンロールなんてことも申します。あれですよ。ライブなんか見た後、どんなに良くてもうっかり素直な感想を言っちゃいけませんよ。「いやあ、最高よかったです」なんて言う。「なんか文句あんのかおらあ」なんてすごまれます。「ファッキング・クレイジーなステージだったぜ」なんて言う。目を細めて喜びます。「そうか、良かったか」なんてね。だから良かったんだってば。まったく素直じゃない。「文句あんのか」なんてすごんでるのも照れ隠しなんじゃないかって話もありますな。

こいつぁ別にロックンローラーに限った話じゃない。こういうのは、いろんなところに、へそ曲がりはいます。たまたま声をかけた女がこういう手合いだと大変面倒くさいことになります。ちょっと見かけて「いい女だな」と思っても、「いい女ですね」みたいなことを、間違っても言っちゃあいけない。へそを曲げちゃうから。じゃあ、どう言えばいいのかっていうと、それはその場でいろいろと創意工夫しなきゃならない。だから面倒くさいんですな。

新聞記者の男がおりまして、文化欄かなんかを担当している。せっせと出かけてはお芝居を見たり、展示会を鑑賞したり、コンサートやらライブやらに足を運んだりしては記事を書く。その日は出張に出かけた先で偶然見つけた写真展かなんか見まして、ホテルの部屋で原稿を書き上げて、近頃は便利ですな、メールなんぞを使ってぽーんとこの原稿を送ってからホテルのバーに顔を出す。

するとあなた、いるじゃないですか、めっぼういい女が。顔も好み。スタイルも好み。ファッションセンスもいい感じ。ドライマティーニかなんかをひとりでやっているさまも絵になっている。ああいうときは何ですな。景色がカメラみたいになりますな。もういきなりズームイン。そこのへちゃむくれた老若男女なんかはフレームアウト、視界に入らなくなりますな。

「最初が肝心ですよ。このタイプはひよっとするとロックンロールな手合いかもしれせんからね。褒め言葉ってのはむずかしいんだ。素直に褒めちゃいけない。褒めたいところをわざとぐるっとひっくり返して悪口にしなくちゃいけない」なんてことを考えながら声をかけます。

「最悪？」

「もう最悪」

「ひどい店だね」

「おはなしにならない」

なんて調子で。どうしてそれがうまくいくのかさっぱりわかりませんが、これがいい感じになっちゃいまして、気がいたら男の部屋でしっぽりと夜を明かすことになります。不思議な縁で、この女がまさしく写真展を開いていた張本人だなんてこともわかってきまして「あのおぞましい写真のシャッターを切ったのはこの指か」なんて指をからめたり、「あのいやらしいアングルを決めたのはこの目か」なんてベロでなめたりして盛り上がるわけです。

朝ンなって目を覚まして、やっぱり横に女が寝ていて、ああ夢じゃなかったんだ、こんないい女となあ、人間生きてりゃいいこともあるもんだ、なんてしみじみしていると、向こうも気配を感じてか、目を開く。これがまた絵になる。ミスユニバース寝起き部門なんてのがあったら間違いなくグランプリだ。ところが、その瞳を覗き込んで「きれいだ」なんて言ったが最後、相手はカンカンになって怒り出す。やあ、しまった、素直に言っちゃいけなかったんだと気づいても、もう後の祭り。

頭を冷やそうってんで街に出て、新聞を買って店に入り、コーヒーなんぞ頼んで、タバコをすばすばやりながら読んでいると、自分が書いた記事がちゃんと出ている。夕べ書いた写真展の記事ですな。一夜を共にした女写真家の批評です。斬新な視点で切り取られた都市の肖像、彗星のごとく現れた俊英、今期最高の収穫、なんてなことが書いてある。こむずかしいことをごちゃごちゃ言ってよくわかりませんが、まあ要するにいいことづくめに絶賛しているわけですな。

そうだ、こいつを読ませて機嫌を取ってやろうってんで、さっそくコーヒーを切り上げてホテルの部屋に戻る。女はまだベッドから出ていない。

「写真展の批評が出てるよ」  
「サイアク」  
「おれが書いたんだ」  
「サイテー」

なんてことを言いながらも女は新聞を手にとって批評を読み始める。あれだけ絶賛してるんだから機嫌を直してくれるだろうと考えてから、女がへそ曲がりなことを思い出す。手渡して女が読み始めた後になって、しまった褒め言葉を読ませちゃいけなかったんだと気づくがもう遅い。後の祭りだ。案の定、読み終わるなり第一声はこうきた。

「何これ！ 斬新な視点？」  
「いやね」  
「彗星のごとく現れた俊英？」  
「だからね」  
「今季最高の収穫って！」  
「つまりそれはね」  
「全部ひどい悪口じゃない！」  
「その通りだ。じゃあ何で顔は笑ってるんだい？」  
「だあいすき！」

まあ、勝手にやってなさいと言う……。そこで男がひとこと。  
「ああ、ひどい悪口を書いておいてよかった」  
褒め言葉は難しいというお話でございます。

(「悪口」 ordered by くー--san/text by TAKASHINA, Tsunehiro a.k.a.hiro)

## 感謝の言葉と、お願い&お誘い

---

Sudden Fiction Project（以下SFP）作品を読んでいただきありがとうございます。お楽しみいただけましたでしょうか？ もしも気に入っていただけたらぜひ「コメントする」のボタンをクリックして、コメントをお寄せください。ブログへの登録（無料）が必要になりますが、この機会にぜひ。

「気に入ったけどコメントを書くのは面倒だ」と言うそのあなた。それでは、ぜひ「ツイートする（Twitter）」「いいね！（Facebook）」あたりをご利用ください。あるいは、mixi、はてな等の外部連携で「気に入ったよ！」とアピールしていただくと大変ありがたいです。盛り上がります。

※星5つで、お気に入り度を示すこともできますようですが、面と向かって星をつけるのはひょっとしたら難しいかも知れませんね。すごく気に入ったら星5つつける、くらいの感じでご利用いただければ幸いです。

現在、連日作品を発表中です。2011年7月1日から2012年6月30日までの366日（2012年はうるう年）に対して、毎日「1日1篇のSFP作品がある」という状態をめざし、全作品を無料で大公開しています。→[公開中の作品一覧](#)

SFP作品は、元作品のクレジットをきちんと表記していただければ、転載や朗読などの上演、劇団の稽古場でのテキスト、舞台化や映像化などにも自由にご活用いただけます。詳しくは「[Sudden Fiction Project Guide](#)」というガイドブックにまとめておきました。使用時には、コメント欄で結構ですので一声おかけくださいね。

ちょっと楽屋話をすると、7月1日にこのプロジェクトを開始して以来、日を追うごとにつくづく思い知らされているのですが、これ、かなり大変なんです（笑）。毎日1篇、作品に手を入れてアップして、告知して、[Facebookページ](#)などに整理して……って、始める前に予想していたよりも遥かに手間がかかるんですね。みなさんからのコメント、ツイート（RT）、「いいね！」を励みにがんばっていますので、ぜひご協力お願いいたします。

読んでくださる方が増えるというのもとても嬉しい元気の素なので、気に入った作品を人に紹介して広めていただけるのも大歓迎です。上記Facebookページも、徐々に充実させてまいりますので、興味のある方はリンク先を訪れて、ページそのものに対して「いいね！」ボタンを押してご参加ください。

10月からは「1日1篇新作発表」の荒行（笑）を開始し、55作品ばかり書き上げる予定です。「[急募！お題 この秋Sudden Fiction Project開催します](#)」のコメント欄を使って、読者のみなさんからのお題を募集中です。自分の出したお題でおはなしがひとつ生まれるのって、ぼくも体験済みですが、かなり楽しいですよ！ はじめての方も、どうぞ気軽に遠慮なくご注文ください（お題は頂戴しても、お代は頂戴しないシステムでやっています。ご安心を）。

こんな調子で、2012年6月30日まで怒濤で突き進みます。他にはあんまりない、オンラインならではの風変わりな私設イベントです。ぜひ一緒に盛り上がってまいりましょう。

## 褒め言葉

<http://p.booklog.jp/book/42280>

著者 : hirotakashina

著者プロフィール : <http://p.booklog.jp/users/hirotakashina/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/42280>

ブックログのpapier本棚へ入れる

<http://booklog.jp/puboo/book/42280>

公開中のSudden Fiction Project作品一覧

<http://p.booklog.jp/users/hirotakashina>

電子書籍プラットフォーム : ブックログのpapier ( <http://p.booklog.jp/> )

運営会社 : 株式会社paperboy&co.